

# COMMUNITY COLLEGE IN CALIFORNIA

(加州のコミュニティカレッジ)

三 沢 美智子

地方自治を主張するアメリカには、日本の文部省にあたる省庁は存在せず、教育制度は州により異なる。地域事情を濃く反映するコミュニティカレッジの実態も州差があると考えられる。全米でも誇りうる発展を遂げたカリフォルニア州のコミュニティカレッジを中心に、その現状、発展を追い、いかに地域に支えられた、多様性に富み、変化を続けている高等教育制度であるか、またオープンドア方針と、大学の学力水準維持の両立をどの様にはかられているか論じてみたい。我国の2年制大学の今後のあり方に何かヒントが得られるだろうか。

教育改革が話題にのぼる我国でも「コミュニティカレッジ」の語を耳にしはじめた。字義どうりには「地域社会の大学」であるが、アメリカで発展を続け、固有の制度として確立された現段階のコミュニティカレッジを定義すると、高等教育機関を、いわゆる学習最適年齢の青年達の教育の場と限定せず、人間の生涯の教育を引き受ける場とみなし、原則的には、その地域社会の全住民のニーズに応えるための教育課程を用意し、できるだけ低学費で、学習の場を提供する2年制の大学であると言えようか。

1987年8月のLAタイムズ紙の論説及び1985年の加州コミュニティカレッジ評議会の出した案内によると<sup>注(1)</sup>加州には約500の大学が学位と資格を与えている。即ちUC系の9大学、CSU系の19大学、コミュニティカレッジ106大学及び、州援助を受けない私立大学350余が毎年18万の学位を出している。大学生総数約200万人のうち110万人余がコミュニティカレッジ学生である。全米の公立コミュニティカレッジ総数約1300、学生総数420万であるから、加州へ

の集中度がわかる。110万人の内訳をみると、フルタイム学生23%、パートタイム学生64%、単位取得を考えないノンクレジット学生12%である。全加州成人17人に1人が1984年秋学期に在籍した。4年制大学生に比べて、学生は著しく多様である。平均年齢30歳、35%は少数民族グループに属する。女子学生55%、全学生の75%以上が仕事を持っている。所得水準は平均を下まわる。登録学生の半数は職業的スキル取得を目的とし、3分の1は4年制大学へ編入を志し、その2分の1が希望を達成する。その他は基礎的スキル習得他様々な在籍理由を持つ。提供されるカリキュラムについては、単位を出すコースに1) 4年制大学進学過程 2) 職業教育 3) 一般教育 4) 補習教育(中途退学者、高卒後の期間の長い学生などのため他)、非単位のコースでは、公費負担の科目は、親学、移民の市民権取得を助ける市民教育、成人用基本的教育に限定されるが、学生負担の科目は、地域住民のニーズに応え、従来の伝統的な大学のカリキュラムを越えた様々な試みがなされている。多様な学生が適切なコースを選択し、中途退学などせず、実りある大学教育を全うできるよう、カウンセリング制度が整い、必要な情報を提供し、個人的に積極的に援助をしている。財源の概略は、州援助費61%、地元の財産税25%、学生登録費4%、その他地元からの歳入5%、連邦政府援助費5%となっている。ここにも地方自治の精神がみられる。

教育制度は固定したものではない。社会的・経済的、政治的環境の変化、科学技術の進歩、国際情勢の変化等に伴い、社会の教育に対するニーズも変化する。既存の制度はそれに応じて変容をせまられる。既存のプログラムで対応しきれなくなれば、社会は新しい制度や機関を創り出す。コミュニティカレッジの発展の歴史もその例である。他の教育制度と比べて、その歴史は短い。公立のコミュニティカレッジの起源は1901年のイリノイ州のジョリエット・ジュニアカレッジと言われる。今日のコミュニティカレッジの原型ができたのが30年代であり、大発展を遂げたのは第二次大戦後、トルーマン大統領の託した、高等教育諮問委員会が、大学を知的、経済的エリートだけのものであってはならないことを強調して以来のことであり、60年70年代に大学数が急増したので

ある。第二次大戦後我国にアメリカの6・3・3・4教育制度が導入された折、コミュニティカレッジの紹介がなかったのも、その制度が未だ完全に熟していなかったからではないだろうか。ついでながら、我国の短期大学は、その当時のアメリカのジュニアカレッジを参考にして1950年一部の専門学校や各種学校を暫定的に2年制の大学とし、1964年に制度的に恒久化されたものである。<sup>注</sup><sub>(2)</sub>

Charles R. Monroeによると、公立のコミュニティカレッジは、アメリカの公教育制度の線上の終点に位置するものであり、そのよって立つ基礎は、アメリカの伝統である民主主義的教育観である。

- 1) Universal opportunity for a free public education for all persons without distinction based on social class, family income, and ethnic, racial, or religious backgrounds
- 2) local control and support of free, nontuition educational system, and
- 3) a relevant curriculum designed to meet both the needs of the individual and those of the nation <sup>注</sup><sub>(3)</sub>

即ち、すべての人々に、教育の機会を均等に与え、各地域社会に支えられた無料の教育機関であり、社会、個人のニーズに応えた、カリキュラムを提供するのである。この理想に基づいて、先ず無料の公立小学校が1970年頃までに諸州に設置され、法制化された。南北戦争後、無料の公立高等学校の設置がすすみ、公立学校制度の頂点としての公立大学即ち州立大学の考え方が1860年までに定着した。しかしこの大学は、多くの青年達には縁遠い、エリートのための大学であった。経済的にも、学力的にも選ばれた人々のための大学であった。潜在的進学希望の青年達のための、庶民のための無料の大学の考え方が出はじめることになった。このコミュニティカレッジの初期の発展に貢献した三人のうち二人は加州の大学教授であった。殊に Alexis F. Laye は最も影響を与えたといわれる。前記のように、イリノイ州が、公立ジュニアカレッジの発祥地ではあるが、加州は、1907年全米で、最初に公立の2年制大学の設置認可の法

律が議会を通った州なのである。

2年制の公立大学が、最初から、コミュニティカレッジの名称をもっていたわけではない。カリフォルニアの2年制大学を歴史的にみると、高校卒業後、遠隔地の大学へ、主として経済的理由から進学できない青年達のために、少くとも2年間、大学レベルの教育を受けさせてやりたいという地域住民の願いから作られたのがはじまりだという。名称もつましく“junior college”もっと控えめに“two years of post high school experience,” 又は“the thirteenth and fourteenth grades”などであった。<sup>注(4)</sup>しかし、ジュニアカレッジとして内容も充実し、やがて今日カリフォルニアの誇る、コミュニティカレッジへと発展していった。加州において、この制度が最初から順調な発展を遂げた理由は、まず距離的な問題から、4年制大学が、多くの2年制大学を、大学の初めの2年課程を教育するジュニアカレッジとして、正式に認めたこと、更に、4年制大学3年へ編入した、卒業生達が1年次から4年制大学で教育を受けた学生達に、ひけをとらない立派な成績をあげたことだといわれる。これは現在までも続いている事実で、Chaffey CollegeからCalifornia State University系の大学へ編入した学生の実績を、1984学年度のレポートによると、編入した275人のGPAは2.85であり、1年次から在籍している学生達の平均より7%高いという。<sup>注(5)</sup>

その後この2年制大学は地域の新たなニーズに応じて変容しつつ発展を続けた。急速に発展を遂げた加州の産業界・実業界では4年制大学教育までは必要としない、高校卒以上の教育を受けた、セミプロフェッショナルを多数求めている。エレクトロニクス技師、訓練をうけたセールスマン、機械技術者、秘書、情報処理技能者等々である。2年制大学の職業教育は高く評価され、供給は、需要に追いつけないほどであった。第2次世界大戦、朝鮮戦争、ヴェトナム戦争により生じた新たな社会のニーズに応じて、復員兵援護法が制定され、GIの教育も受入れることになった。更に2年制大学創設時には予想もされなかった教育的役割を受け持つことになる。いわゆる“late bloomers”（遅咲きの人

人)である。大量の成人が、昼夜のクラスに押し寄せた。高校中退者、結婚、就労のため進学を断念していた人、新しい技術の学習、再教育、継続教育の希望者、その他あらゆる理由をもつ人々である。加州では殊に“upward mobility” (社会的に上へ移動しようとする動き)が高く評価されるので、すでに専門職についている人々でも再教育を求め、より良い職をと願うことも珍しくはない。2年制大学は、何らかの意味で公立学校制度から充分恩恵を受けられなかった人々(納税者)が再度やり直し、ためす機会をもとめて集る所となっていた。1960年には、その後の加州の高等教育の方向をつけた“California State Master Plan for Higher Education”が採択され、その後定期的にその妥当性の審査をしつつ今日に至っている。その中で加州の高等教育の機能を三系列に分化し、夫々の役割を明確にしたことが、加州の教育制度を効果的に機能させ、多様性と柔軟性のあるものにしていてと考えられる。

1) The Universities of California (U S) System 9校よりなる。

主として学問的調査研究機関で、博士課程及び多くの修士課程をもつ。

2) The California State Universities and Colleges (CSU) System 19

校、専門課程(3・4年次)、教員養成及び多くの修士課程に重点をおく。

3) junior Colleges (1987現在 70学区 106校)

上級進学をめざす教育と職業教育を行う2年制の教育機関であり、学位はA

A (準学士号)を与える。<sup>注</sup><sub>(6)</sub>

つまり、1960年迄には、高等教育の中の不可欠な要素として、公的な位置を与えられたことになる。1967年には、このプログラムの成果を認め、時の州知事 Ronald Reagan は州議会において“junior college”の名称を、公式に、“Community College”にしたのである。1970年 Richard Nixon 大統領は議会へのメッセージの中で米国のコミュニティカレッジの実績を認めて“A dollar spent on community colleges is probably spent as effectively as anywhere in the educational world.”と述べ、1972年には、加州Reagan 知事は、加州のコミュニティカレッジをたたえ“We in California, take

great pride in our community colleges and in the fact that, in many instances, we have provided an example which other states have followed in creating their own systems.<sup>注(7)</sup>と述べるほど、順調に発展してきた教育制度であるが、70年代後半から州の経済的危機の大波をうけた。全米の中では、州住民に対しては無料の方針をとってきた唯一の州であったが、関係者達には悪名高い Proposition 13が議決された1978年から、新しく登録費（授業料）として学生負担金が決められた。しかし依然として国内では、最も低額な州のひとつであって、6単位以上登録した者は1学期34ドル、5単位以下の者は1単位毎3.5ドル（1987）なので、教育の理想は生きていると考えられる。

門戸開放方針により、入学資格は、州居住者で高校卒業者または、18歳以上で、大学教育を享受できるすべての人である。制限がつけられるのは、州外居住者、復員軍人及びその家族、特別プログラムに入る高校卒業予定者などである。門戸開放と学力水準の低下がしばしば論ぜられるが、加州の場合、広く門を開けて入学を許したあと、徹底したカウンセリング及び登録科目決定前に行う、強制的、あるいは任意の学力・能力・性向などの諸々の判定テストがふるい分けの役目を果たしていると思われる。前記のように、3人に1人の割合で4年制大学への編入志願者達にもこの作用が働くと考えられる。Chaffey Collegeの学長の「AA（準学士号）が社会的に高く評価され、就職にも有利である一方、クラスを僅か履習しただけでAAを獲らなかった者が、コミュニティカレッジの評判を落している」<sup>注(8)</sup>のことは中退者の問題が感じられる。加州においても Minority—Dropout—Illiteracy—Unemployment（unemployable）の問題の図式が描ける傾向が生じていると思われる。州の人口に占める小数グループの割合が急増している。1960年15%、80年33%以上、2000年45%以上と予想され、<sup>注(9)</sup>「California will become a majority/minority state by the 2000.」<sup>注(9)</sup>といわれる。小数グループの中退率は高く、進学率は低い。高校教育では不十分な職業の急増する社会では、その失業率は高くなる。現代の若年失業者の内訳は、

白人15%、スペイン語系24%、黒人40%である。21世紀にむけて若年人口の比率が減少すると見込まれている。生涯学習は勿論、何らかの形で高等教育が重要である。1987年に出された The Master Plan Renewal の中で指摘されている教育制度が応えるべき新しいニーズをひきおこしている社会的・経済的状況の変化として 1) 加州はもはや白人多数の同種的な州ではなくなったこと 2) 市民の多数が生涯教育を必要としていること 3) 経済競争の潮流が必ずしも加州にとって好調ではないこと、の三点をあげている。この再検討報告は、現行のコミュニティカレッジの入学基準及び低額の学生負担費の継続を承認し、州の助成費増額その他の具体的な提言33項目をあげているが、総体的に高く評価しマスタープラン続行をすすめている。<sup>注</sup><sub>(10)</sub>

今後加州のコミュニティカレッジは、多くの問題を抱えながらも、社会のニーズの変化に応える努力をしつつ、民主主義社会の維持発展のために教育が基本であるという信念があるかぎり、発展の道を探り続けるであろう。

#### BIBLIOGRAPHY

1. Blocker, Clyde E. and others: *The Two-Year Colleges ; a social Synthesis*, Prentice-Hall, c 1965.
2. Brock, William E.: "The American Work Force in the Year 2000." *Journal of Community, Technical and Junior College* Feb/Mar 1987.
3. Brossman, Sidney W and Robert, Myron: *The California Community Colleges*, Field Educational, c1973.
4. The California Association of Community Colleges: *The News* vol. 32, no. 6 (Jun-July, 1987)
5. California Community College: *California Community Colleges* Sacramento, 1985.
6. *Chaffey College Catalog 1971-1972, 1987-1988*, Rancho Cucamonga, Calif.
7. *Chaffey College Journal* June 1987 vol. 1, no. 8

8. Eckert, Ruth E. and others: "Development of the Junior College in Minnesota." *Higher Education in Minnesota*, Univ. of Minnesota Press, c1950.
9. *Fullerton College Catalog 1987-1988*, Fullerton, 1987.
10. Kennedy, Gail (ed.): *Education for Democracy*, D. C. Heath, Boston, c1952.
11. Monroe, Charles R.: *Profile of the Community College*, Jossey-Bass, 1972
12. Morse, H. T. and Butter, John A.: "Survey of the Need for Terminal Occupational Curriculum." *Higher Education in Minnesota*, Univ. of Minnesota Press, c1950.
13. Murphy, Thomas P. (ed.): *Universities in the Urban Crisis*, Dunellen Publishing Co., New York, c1975.
14. North Orange County Community College District: *Adult Education Division 1987 Schedule*, Yorba Linda, 1987.
15. Pickens, William H.: "After 27 Years, State Master Plan for Higher Education Gets a Mixed Report Card." *Los Angeles Times* August, 1987.
16. *Rancho Santiago College Class Schedule Summer 1987 Fall 1987 and Community services Summer 1987 Program* Santa Ana, 1987.
17. *Santa Monica College Class Schedule Fall 1987*, 1987.
18. Smith, Joshua: "Equity with Excellence—Raising Minority Student Expectation and Standards of Academic Excellence." *Journal of Community, Technical and Junior College* Feb/Mar 1987.
19. Wheeler, Helen Ripper: *The Community College Library—a Plan for Action*, The Shoe String Press, Hamden, 1965.
20. 大日本百科事典 Vol.11 小学館 1969

21. 平凡社大百科辞典 Vol. 9 1985
22. 重藤信英, 鶴田義男: アメリカのコミュニティカレッジ 国土館大学宗教研究所 1986

Notes

- (1) California Community College: *California Community Colleges*, Sacramento, 1985  
Pickens, W. H: "After 27 Years, State Master Plan for Higher Education Gets a Mixed Report Card." *Los Angeles Times* August, 1987
- (2) 大日本百科事典 V.11 小学館 1969  
平凡社大百科辞典 V. 9 1985
- (3) Monroe, Charles R.: *Profile of the Community College*, Jossey-Rass, 1972
- (4) Brossman, Sidney W and Robert, Myron: *The California Community Colleges*, Field Educational, c1973
- (5) *Chaffey College Journal* June 1987, Vol. 1, no. 6 P. 1
- (6) Brossman, *ibid*, P. 103
- (7) Brossman, *ibid* P. 75
- (8) *Chaffey College Journal* P. 1
- (9) Brock, William E: "The American Work Force in the year 2000" *Journal of C. T and J. Colleges*, Feb/ Mar, 1987
- (10) Pickens, *ibid*